

「郡村誌」からみた明治16年(1883)頃の上賀茂村の様子

東 昇

○「郡村誌」とは

「皇国地誌」ともよばれ、明治8～18年(1875～1885)の全国的な地誌編纂により、各府県で作られたものである。この時期は、明治22年の大規模な町村合併以前であり、ほぼ近世村と同じ範囲の各村の多様な状況を、全国同じ基準で知ることができる貴重な史料である。京都府立総合資料館には「京都府庁文書」のなかに「京都府地誌」としてまとめられている。以下、村の様子がわかる部分を抜粋して紹介する。この他に字地・社が含まれる。

○上賀茂村の様子

- ・村の広さ 東西19町20間(2.1km) 南北32町40間(3.6km)
- ・府庁からの距離 京都府庁から大宮通、東紫竹大門村を經由し1里30町(7.2km)
- ・地形 西北から東南にかけて長い、村の形は楕円形、北は山があり、賀茂川が西北から南へ流れる。輸送は便利であるが薪炭は充分ではない
- ・地質のよしあし 東南は平坦で赤黒土、質は良く稲や麦、蔬菜に適している。西北部は高い地形で黄白土、粘質であるので製瓦に適している。また柿茶蕎麦にもよい。
- ・耕地面積 田120町9反7畝10歩1厘1毛(120ヘクタール)、畑40町1反3畝28歩8厘3毛(40ヘクタール)
- ・戸数 本籍620戸(士族221戸、平民399戸) 寄留5戸(士族3戸、平民2戸) 社8戸(官幣大社1座、摂社7座) 総計633戸
- ・人数 男1555人(士族465、平民1090) 女1562人(士族488、平民1074) 総計3117人
- ・牛馬 牡牛75頭 牡馬43頭
- ・山 本山 神山 計志山 石山
- ・川橋溝 賀茂川 御園橋 葛ヶ淵橋 楠溝 毛穴井溝 大野溝
- ・森林 神山林(松42092株) 本山(松杉檜392175株)
- ・湖沼 阿禮ヶ池 小池 深泥池
- ・道路 西鞍馬道 東鞍馬道 岩屋道
- ・堤防 賀茂川堤
- ・学校 人民共立小学校 生徒男108人 女31人
- ・郵便局 五等郵便局
- ・遺跡旧跡 御生所野 齋院址 古関址 岡本神社址 神宮寺址 聖神寺址 佛光山塔尾址 多宝塔址
- ・物産 西瓜7500貫目(28トン) 茄子7000貫目(26トン) 大根15000貫目(56

トン) 蕪菜 12300 貫目 (46 トン) 瓦 65000 余 酸茎 9800 貫目 (36 トン) 年魚 2500 頭 松菌 150 貫目 (562 キロ) 小鳥 15000 頭 蓴菜 5 石 製茶 2900 斤 (1.7 トン)

・職業 男農業 400 戸、雑業、女農業行商を兼業

○史料本文

(< > 内は分かち書き)

山城国愛宕郡上賀茂村 (概略)

本村古ヨリ賀茂郷ニ属ス、相伝フ神武天皇東征ノ後賀茂建角命大和ノ葛城ヨリ此地ニ転遷ス、因リテ賀茂ト称スト云、深泥池、^{ミトロ}終原ハ古ヨリ本村ノ支邑タリ、明治二年共ニ本村ニ合併ス

疆域 (範囲)

東ハ同郡松ケ崎村ト田ヲ以テ界シ、西ハ西賀茂村ト賀茂川中央ヲ以テ界シ、又雲ケ畑村ト於三石山ヲ接ス、南ハ小山村ト田圃及ヒ賀茂川堤ヲ以テ界ス、北ハ市原村ト田及ヒ川ヲ限ル

幅員 (村の広さ)

東西凡十九町廿間、南北凡三十二町四十間、面積欠ク

管轄沿革

古ヨリ賀茂別雷神社ノ神戸タリ、寛仁二年戊午後一条天皇本郡内賀茂。小野。錦部。大野。ノ四郷ヲ附セラレ、全ク其社領ニ属ス、明治四年京都府ニ属ス

里程 (府庁や近村への距離)

京都府庁ヨリ北方大宮通東紫竹大門村ヲ経テ本村中央ヘ一里三十町、四隣東松ケ崎村ヘ廿町、西、西賀茂村ヘ凡十町、南小山村ヘ十三町余、北市原村ヘ一里五町

地勢 (地形)

乾巽位ニ長ク、坤艮位ニ狭シ、略楕円形ヲナス、北ハ山嶺屏列シ賀茂川西北境ヨリ南面ヲ流通ス、運輸便利薪炭充分ナラス

地味 (地質のよしあし)

東南ハ平坦ニシテ赤黒土其質佳ナリ、稲麥蔬菜ニ適ス、西北部ハ地勢較高ク黄白土ニ属シ粘質ニシテ製瓦ニ適シ、又柿茶蕎麥ニ適ス

税地 (耕地面積)

田 < 百廿貳町九反七畝拾歩壹厘壹毛 > 畑 < 四拾町壹反三畝廿八歩八厘三毛、外社寺境外上知五反六畝拾七歩 > 新田 < 貳反三畝九歩 > 大縄田 < 三反七歩 > 大縄畑 < 七反六畝十歩 > 山林 < 反別未定 > 総計 < 百六拾四町九反七畝貳拾壹歩九厘四毛 >

貢租

地租<金五千五円五拾貳錢、上地租拾壹円六錢八厘>口米金<金百五拾円拾八錢三厘>山
税<金五拾壹錢貳厘>国税<金四拾九円>府税<金四拾三円六拾八錢>總計<金五千貳百
五拾九円九拾六錢三厘>

戸数

本籍六百廿戸<士族貳百廿一戸平民三百九十九戸>寄留五戸<士族三戸平民二戸>社八戸
<官幣大社一座、摂社七座>總計六百三十三戸

人数

男千五百五十五口<士族四百六十五口平民千九十口>女千五百六十二口<士族四百八十八
口平民千七十四口>總計三千百十七口<他出寄留九十一人男五十人女四十一人外寄留二十
人男九人女十一人>

牛馬

牝牛七十五頭、牝馬四十三頭

山

ホンサン 本山<本村北二丁ニアリ、高サ凡五十間周囲一里余、東西南ハ本村ニ属シ、北ハ市原村ノ
田ニ接ス、樹木叢生ス>神山<高サ凡六十間、周囲二里余、形勢主属本山ニ同シ>計志山
<高サ凡五十間、周囲凡七町嶺上ヨリ北ハ幡枝村ニ属シ、東西南ハ本村ニ属ス、矮松疎生
ス>石山<高サ凡八十間、周囲凡三里、東面ハ市原ニノ瀬両村ニ属シ、西ハ西賀茂村ニ属
シ、北ハ雲ヶ畑村、南ハ本村ニ属シ、杉疎生ス>

川

賀茂川<二等河ニ属ス、古ハ石河瀬見小川ト云、水源二条アリ、一ハ同郡貴船鞍馬静原等
ノ諸山ヨリ發シ、市原村ヲ經テ本村字落合ニ至ル、之ヲ市原川ト云、一ハ雲ヶ畑岩屋山ヨ
リ發シ雲ヶ畑村ヲ經テ亦落合ニ至ル、之ヲ小野川ト云、両川会合シテ後賀茂川トナル、是
ヨリ一瀉シテ下鴨村ノ東南端ニ至ル、境内長サ三十四丁余、巾五十間ヨリ七十間ニ至ル、
深サ一尺ヨリ三尺ニ至ル、清ニシテ急ナリ、舟筏通セス>御園橋<賀茂川ニ架ス、土橋長
サ五十七間、巾一間五分>葛ヶ淵橋<賀茂川ニ架ス、板橋長サ八間、巾五尺、此他小板橋
略ス>楠溝<本村字毛穴井ヨリ賀茂川ヲ分派シ、賀茂社境内及ヒ村ノ中央ヲ貫キ南流泉川
ニ入ル、長サ凡三十一間巾二間、田七拾七町三反歩ノ用水トナス>毛穴井溝<本村字葛ヶ
淵ヨリ賀茂川ヲ分派シ楠溝ニ入ル、長サ凡十二町巾二間四拾壹町三反歩ノ用水トス>大野
溝<字大野樋口ヨリ賀茂川ヲ分派シ小山村界ニ入ル、長サ凡十八間巾一間田十丁八反歩ヲ
養フ>

森林

神山林<官ニ属ス、村ノ西北ニアリ四履欠ク、反別貳百拾八丁九反九畝貳拾歩、二間半以
下松凡四万貳千九拾二株>本山<官ニ属ス、村ノ北ニアリ四履欠ク、反別貳百七町四反九
畝七歩、二間以下松杉檜凡三拾九万貳千七百七十五株>

湖沼

阿禮ヶ池<一名蟻ヶ池、周囲五町、反別四町八反四畝壹歩、村ノ北方ニアリ、旱魃豫備トナス>小池<村ニ北ニアリ、周囲四丁、反別三町六反七畝貳拾四歩、旱魃予備トナス>深泥池<村ノ東ニアリ、周囲欠ク、反別八町壹反三畝拾九歩、亦旱魃ニ充ツ、此池其来ル甚タ久シ古歌ニ散見ス、此他小池三十余所アリ略ス>

道路

西鞍馬道<古へ長田井道ト云、西賀茂村界ヨリ市原村界ニ至ル、長サ拾九丁三十間巾二間>東鞍馬道<幡枝村界ヨリ下鴨村界ニ至ル、長サ十八町巾貳間>岩屋道<本村字追分ヨリ西賀茂村界ニ至ル、長サ十四丁巾一間>揭示場<本村西南字御園口ニアリ>

堤塘（堤防）

賀茂川堤<西賀茂村界字上ノ岸ヨリ起リ小山村界ニ至ル、長サ十一町馬踏五間堤敷八間、堤上行樹アリ、水門二所、修繕官ニ属ス>

学校

人民共立小学校一所<村ノ中央字南大路ニアリ、生徒男百八人女三十一人>

郵便局

五等郵便局<学校ノ南一間ノ所ニアリ>

古跡（遺跡・旧跡）

御生所野<賀茂境内ニアリ、相伝フ賀茂別雷命此地ニ降臨アル所ト云、今御阿礼ノ祭ヲナス>齋院址<同境内ニアリ、嵯峨天皇弘仁元年皇女有智子内親王ヨリ礼子内親王ニ至ルマテ三十一代、此院中ニ於テ奉齋アリシト云、其傍ノ小流ヲ有栖川ト称ス>古関址<村ノ東北八町字深泥池ニアリ、設置年月詳ナラス、事ハ親長記ニ載ス>岡本神社址<式内社タリ、村ノ東北字岡本ニアリ>神宮寺址<本山ノ南麓ニアリ、弘仁十一年庚子嵯峨天皇ノ勅建ニ係ル、応安六年癸丑十一月焼廢シ、明治元年全ク絶ツ>聖神寺址<賀茂社境内ニアリ、弘仁十一年賀茂称宜男床建立ス、明治元年廢ス>佛光山塔尾址<村ノ東北ニアリ、建保六年戊寅賀茂社主能久僧明恵ニ属シテ創建スト、其後承久ノ役能久官軍ニ従ヒ兵敗レテ捕ヘラル、僧明恵京西梅尾山ニ帰栖シ、其房舎ヲ轉移ス>多宝塔址<社境内ニアリ、神宮寺九重塔ノアル所ト云、塔址方七間、百練抄曰永久四年六月廿日、但馬守家保勅ヲ奉シテ造立スト>

物産

西瓜<七千五百貫目>茄子<七千貫目>大根<一万五千貫目>蕪菜<一万二千三百貫目>瓦<六万五千余>酸苳<九千八百貫目>年魚<二千五百頭>松菌<百五十貫目>小鳥<一万五千頭>蓴菜<五石>製茶<二千九百斤>

民業（職業）

男<農業凡四百戸、余ハ雑業>女<農業行商ヲ兼ヌ>

（本内容の一部は、京都府立大学 ACTR（地域貢献型特別研究）、2013 年度「京都地域情報・文化遺産データベースのコンテンツ作成と活用」（代表東昇）の研究成果である）